

⑱実用新案公報 (Y2) 昭56-51885

⑯Int.Cl.³
A 63 B 57/00識別記号
A 63 B 57/00府内整理番号
6970-2 C

⑰公告 昭和56年(1981)12月3日

(全3頁)

1

2

④ゴルフティ

②実願 昭53-91162
 ②出願 昭53(1978)6月29日
 公開 昭55-5998
 ③昭55(1980)1月16日
 ⑦考案者 永田 寛次郎
 八尾市安中町9丁目1番地
 ⑦出願人 永田 寛次郎
 八尾市安中町9丁目1番地
 ⑦代理人 弁理士 永田 良昭
 ⑨引用文献
 実開 昭50-3671 (JP, U)
 実公 昭8-15565 (JP, Y1)

⑤実用新案登録請求の範囲

硬質支柱3の略上下中間部より上方の上端部材5の上面8をゴルフボールの支受面とし、前記上端部材5の外周には、複数個所に通気孔16を有し、上部程大径となる衝撃により変形する筒状支持部材4を設け、該筒状支持部材4と支柱上端部材5間に環状空間部24を形成し、前記筒状支持部材4の上端縁17をゴルフボール載置部としたことを特徴とするゴルフティ。

考案の詳細な説明

この考案はゴルフプレイにおけるティアップ時に使用するゴルフティに関する。

現在一般に使用されているゴルフティは硬質樹脂材により一体的に成形され、そのゴルフボール載置部はゴルフボールを安定性よくかつ確実に支受るためにその支受面積を大きくしましたその周縁部を中心部より高くしている。

このようなゴルフティにあつては、そのゴルフボール載置部がゴルフボールの下面外周にそつて側面に大きく突出しているためティショットの際にクラブヘッドがゴルフボールに接触直後にこの載置部周縁にタイミング的に早い時期に衝突し、

この載置部周縁との衝突によってクラブヘッドのスピードは極端に低下するとともに、ゴルフティ一もいつしよに遠くに飛んでしまい紛失してしまうことが多かつた。

5 さらにゴルフティの載置部の周縁部に加えられた大きな衝撃力は直接その支柱部に伝わり、支柱部が折損することもあつた。

そこでこれらの問題および欠点を解決するために、従来のゴルフティの載置部の支受面積を小さくする方法が考えられるが、あまり小さくするとゴルフボール載置時の安定性が悪くなるため、このことにも限界がある。

また一部のゴルフティには載置部全体を軟質材で形成したものもあるが、このゴルフティにあつては載置部全体が軟質でありゴルフボールを弹性的に支受しているためゴルフボールの打撃時におけるボールの安定性にかけるなどまだ多くの欠点を有するものである。

これらの諸欠点を解決したのが本考案であり、20 以下その一実施例を図面にもとづいて説明する。

ゴルフティ1はゴルフボール2を支受する硬質支柱3とゴルフボール2を補助的に支持する軟質材で上部に至る程大径の筒状の支持部材4とから成る。

25 上記支柱3はその略上下中間部より上方の上端部材5と下端部材6と支柱3の強度を高めるための補強芯材7とにより形成されている。

上記上端部材5には、その上端においてゴルフボール2を支受する支受面8を有し、その下端中30 心部において嵌合溝9を有した嵌合凹部10と、芯材7を挿入するための孔11が設けられている。

また上記下端部材6は、その下端部12は地面上に突刺すため鋭利に形成し、その上端部において前記上端部材5に設けられた嵌合凹部10に嵌り合うよう溝13を有した嵌合凸部14と、芯材7を挿入するための孔15が設けられている。

そして上記上端部材5の嵌合凹部10と下端部

3

材6の嵌合凸部14とが嵌り合うことにより支杆3が形成される。このとき同時に1個の芯材7が上端部材5および下端部材6の孔11,15に挿入され、両部材5,6を補強連接する。

前記支持部材4には内外両面に開通した通気孔16とゴルフボール2の下面外周を補助的に支持する周縁部17とが設けられている。

この支持部材4の被嵌孔18には支杆3の下端部材6の嵌合凸状部14が挿入され、下端部材6の挟持面19と上端部材5の挟持面20とにより、支持部材4の挟持部21が挟持固定されている。

またこの支持部材4は、支杆3に固定されたとき、支持部材内周面22と支杆外周面23とにより適當な空間24を形成するような形状である。

上述した如く本考案のゴルフティーにあつては、支杆3の略上下中間部より上方の上端部材5の上面8をゴルフボールの支受面とし、前記上端部材5の外周には、複数箇所に通気孔16を有し上部程大径となる衝撃によつて変形する筒状支持部材4を設け、該筒状支持部材4と支杆上端部材5間に環状空間部24を形成し、前記筒状支持部材4の上端縁17をゴルフボール載置部としたことにより、勢いよく振り降されたクラブヘッドの引き起す風は、インパクト直前にクラブヘッド側の通気孔から他の通気孔へ瞬間に排出されることになり、このため風の抵抗が少なくなるとともに、イ

5

ンパクト直後にクラブヘッドが筒状支持部材4と衝突しても、前記環状空間部24のため筒状支持部材4は容易に内側へ屈曲変形し、衝突による抵抗を殆んど無くすことができる。

このためクラブヘッドのスピードは低下せず勢いよくクラブを振り抜け、従来のゴルフティを使用した場合に比べ飛距離が大きくなる。

しかもインパクトの瞬間、前述した通り筒状支持部材4は屈曲変形すると同時に、支杆上端部材5と筒状支持部材4間の環状空間部24内には空気層があるため、ゴルフティは遠くへ飛んだり折れたりすることなく、殆んどティショット位置近傍部にある。従つてティを紛失することが少なく1本のゴルフティを長く使用できる。

更に本考案では中芯に位置する上端部材上面8は、ボールの支受面に形成し、筒状支持部材4の上端縁17を載置部としているので、硬いティグランドの土にも簡単に突差すことができる。

図面の簡単な説明

図面はこの考案のゴルフティーの一実施例を示しており、第1図はゴルフティーの斜視図、第2図はゴルフティーの分解斜視図、第3図はゴルフティーのA-A断面図、第4図はゴルフティーのB-B断面図である。

25 1……ゴルフティー、2……ゴルフボール、3……支杆、4……筒状支持部材、12……下端部。

4

